

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報			
ふりがな	にしむら ひろし		
氏名	西村 浩		
所属	株式会社ワークヴィジョンズ		
役職	代表取締役		
活動エリア	全国		
連絡先	住所	〒	140-0002
	電話番号	03-5715-7761	
	メールアドレス	info@workvisions.co.jp	
キャッチコピー	「空きはポテンシャル」— 小さな“楽しい出来事”の連鎖で、まちの新陳代謝を促し、暮らしを育てる地域再生 —		
自己PR	<p>1967年佐賀県生まれ、東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了後、1999年ワークヴィジョンズ一級建築士事務所を設立。</p> <p>土木出身ながら建築の世界で独立し、現在は、建築・リノベーション・土木分野のデザインをはじめ、全国各地の都市再生戦略の立案、まちづくりのディレクションまで、まちとそこで暮らす人々の豊かで楽しい日常づくりを実践。</p> <p>2014年には佐賀市呉服元町に同社佐賀オフィス兼シェアオフィス「COTOC0215」を構え、2020年にはベグル専門店「MOMs' Bagel」の事業主となり、マイクロボロバラーとして故郷佐賀のまちづくりにも取り組んでいる。</p> <p>北海道岩見沢市の「岩見沢複合駅舎」では、日本建築学会賞(作品)2009年度グッドデザイン賞・大賞のほか BCS賞、ブルネル賞、アルカンシア建築賞、公共建築賞など、国内外147の賞を受賞。</p> <p>近年では、2021年度グッドデザイン賞・金賞(神水公衆浴場)を含むグッドデザイン賞5作品受賞、日本空間デザイン賞2021の最高賞 KUKAN OF THE YEAR(神水公衆浴場)、都市景観大賞特別賞(糸魚川駅北地区)、土地活用モデル大賞国土交通大臣賞(佐賀市呉服元町ストリートマーケット)受賞。2023年度には盛岡バスセンターほか3作品でグッドデザイン賞受賞。2025年「SAGA サンライズパーク+栄光橋+佐賀市文化会館西側広場」で土木学会デザイン賞最優秀賞を受賞するなど、分野を超えてエリア価値の向上に寄与するプロジェクトで高い評価を受けている。</p>		
関連ホームページ	名称	株式会社ワークヴィジョンズ	
	アドレス	https://www.workvisions.co.jp/	
2. 略歴・受賞歴			
略歴・受賞歴	【主な経歴】	<p>1967年 佐賀県生まれ</p> <p>1991年 東京大学工学部土木工学科卒業</p> <p>1993年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了</p> <p>1999年 ワークヴィジョンズ・アーキテクト・オフィス設立</p> <p>現在</p> <p>株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役</p> <p>オンザールブ株式会社 代表取締役</p> <p>株式会社まちなか不動産 代表取締役</p> <p>株式会社呉服元町ストリートマーケット 取締役</p> <p>マシノゴト/COTOC0215 代表</p>	
	【受賞歴】	<p>2003年 グッドデザイン賞(長崎県万橋)</p> <p>2004年 グッドデザイン賞 金賞(長崎水辺の森公園(橋梁群担当))</p> <p>2005年 グッドデザイン賞(鳥羽海辺のプロムナード「カモメの散歩道」)</p> <p>2007年 土木学会デザイン賞 優秀賞(長崎水辺の森公園(橋梁群担当))</p> <p>2008年 土木学会デザイン賞 優秀賞(鳥羽海辺のプロムナード「カモメの散歩道」)</p> <p>照明学会照明普及賞 優秀施設賞(岩見沢複合駅舎)</p> <p>2009年 第4回まち交文賞プロセス賞受賞(岩見沢複合駅舎及び周辺地区)</p> <p>第34回北海道建築賞/鉄道建築協会賞 最優秀協会賞/グッドデザイン賞・大賞/北海道赤レンガ建築賞(岩見沢複合駅舎)</p> <p>2010年 日本建築学会賞【作品】/第51回 BCS賞(岩見沢複合駅舎)</p> <p>2011年 日本建築学会作品選奨/ブルネル賞/アルカンシア建築賞(岩見沢複合駅舎)</p> <p>2013年 グッドデザイン賞(佐賀「わいわい!!コンテナプロジェクト」)</p> <p>2014年 第14回公共建築賞(岩見沢複合駅舎)</p> <p>2015年 照明学会照明普及賞(大分駅北口駅前広場)</p> <p>2016年 平成28年度都市景観大賞(景観まちづくり活動・教区部門)(南町2850プロジェクト-喜多方市小田付地区 空き家・空き地の再生-)</p> <p>2017年 土木学会デザイン賞 優秀賞(嘉瀬川ダム)</p> <p>照明学会照明普及賞 優秀施設賞(長崎漁港防災緑地「おのうえの丘」)</p> <p>2019年 グッドデザイン賞・土木学会デザイン賞 優秀賞(長崎県庁舎・長崎県立本都庁舎・長崎漁港防災緑地「おのうえの丘」)</p> <p>2021年 都市景観大賞 特別賞(糸魚川市駅北地区/糸魚川駅北大火からの復興・再生)</p> <p>土地活用モデル大賞 国土交通大臣賞(佐賀市 ON THE ROOF・呉服元町ストリートマーケット(MOMs' Bagel+SUSIE))</p> <p>グッドデザイン賞 金賞/日本空間デザイン賞2021 KUKAN OF THE YEAR(神水公衆浴場)</p> <p>グッドデザイン賞4作品受賞(福島県石川町 文教福祉複合施設「モトガッコ」/糸魚川市駅北広場「キターレ」/佐賀市 呉服元町ストリートマーケット)</p> <p>鹿児島世界文化遺産オリエンテーションセンター)</p> <p>2023年 グッドデザイン賞3作品受賞(盛岡バスセンター/九州佐賀国際空港/ふさあげ納富病院)</p> <p>2024年 グッドデザイン賞(SAGA サンライズパーク+栄光橋+佐賀市文化会館西側広場)</p> <p>2025年 土木学会デザイン賞 最優秀賞/第65回BCS賞(SAGA サンライズパーク+栄光橋+佐賀市文化会館西側広場)</p>	
3. 取組分野			
観光	(地域資源の再編成により、滞在型観光や関係人口創出につながる観光戦略の立案・施設整備・運営体制構築)		
観光・食・酒・観光人口	(住宅整備にとどまらず、仕事づくりやコミュニティ形成を含めた総合的な移住促進施策の企画・実装)		
農林水産業	(農業を基盤産業と位置づけ、生産・流通・加工・観光を連動させた地域内経済循環モデルの構築)		
起業支援	(空間整備と人材育成を組み合わせ、小さなナワイやローカルビジネスのほか、交流拠点施設等の管理運営を担う組織として法人化し、継続するための支援)		
まちなか再生	(空き家活用や公共空間活用を通しての小規模事業者やローカルプレイヤーの創出・育成によるエリア価値向上・被災地における復興・再生)		
集落再生	()		
環境	(自然環境と都市機能を分断せず、水・緑・エネルギーの循環をまちの構造に組み込んだ持続可能な地域モデルの構築)		
その他	(公民連携による公共施設・交流拠点等の企画・設計と持続可能な施設運営スキームづくり 道沿い公園・河川空間等の公共空間を、人が滞在・交流する場へと転換する空間づくりと集落の価値向上につながる仕掛けのデザイン)		
4. ふるさと財団での実績			
外部専門家(活用助成)	<p>2024年度～ 山形県上山市「かみのやま温泉駅東エリア」住民連携まちづくり事業」</p> <p>2025年度 三重県津市 外部専門家組定期派遣事業</p>		



5. 取組内容・実績	
取組内容・実績	<p>【取組事例① 移住・定住・関係人口】</p> <p>(1) 事業名 : 「公園となりの豊かな暮らしづくりかみのやま温泉駅東パークタウン官民連携事業 ※2024年度－</p> <p>(2) 対象地 : 山形県 上山市</p> <p>(3) 事業目的: ・子育て世代、若者の居住を促進し、各世代のバランスを整えることにより移住・定住人口及び出生数を増加させるとともに、観光客等をターゲットとした駅の西側エリアとの差別化を図ることで、駅東西のまち動機を高め、関係人口・交流人口の増加と地域内経済の好循環を生み、官民連携による開発効果を最大化させる。</p> <p>(4) 事業内容: 単なる宅地分譲ではなく ・公園・緑道と一体化した住宅地整備 ・子育て世代を主対象とした暮らしの提案 ・ナリワイづくりの実施による小商い創出と運動 ・景観・デザインガイドラインの策定 ・新たなライフスタイルを発信するプロモーション展開（Lifestyle Bookの作成・シンポジウムの開催・ハウスメーカー対象説明会の開催など） を組み合わせて、「住む」だけでなく「地域で活動する」ことを前提とした新しい住宅モデルを構築。 また、講座やワークショップを通じて地域プレイヤーを育成し、移住者と既存住民が交わる仕組みづくりを同時に推進する事業である。</p> <p>(5) 事業による成果: ・エリアマネジメントを支える人材の発掘・育成 ・子育て世代を中心とした移住希望者の獲得 ・分譲住宅地のブランド化によるエリア価値向上 ・ナリワイ講座受講生による小規模ナリワイ実践の創出 ・公園を媒介とした地域コミュニティ形成 ・駅東西をつなぐ将来的なまちづくり構想への発展</p>
	<p>【取組事例② エリア再生＋起業・創業支援】</p> <p>(1) 事業名 : 日常の豊かな好循環をつくる「駅北広場キターレ」から始まるエリアリノベーション ※2018年－2019年度</p> <p>(2) 対象地 : 新潟県 糸魚川市</p> <p>(3) 事業目的: 平成28年末、糸魚川市駅北大火により、地区内の住宅や店舗をはじめ歴史を物語る雁木の町並みが消失した糸魚川市の中心市街地は、被災者が帰還するための基盤整備に時間がかかるなど、帰還の障壁が想定され、居住人口の激減につながることを懸念されていた。 この事業は、被災者のスピーディかつスムーズな再建を第一に考えた既存修復型のまちづくりによって駅北エリアに広がる空き地群全体を、関連し合うひとつの施設と捉えた新たな災害復興の取組みであるとともに、新たな起業・創業・出店者の発掘・獲得を目的とした事業である。</p> <p>(4) 事業内容: 駅前未利用地を、単なるイベント広場ではなく、「市民が使いこなし、運営する拠点」とすることを目標に計画。 本事業では、 ・屋内外一体型の可変性ある広場・建築の設計 ・平常時の交流拠点＋災害時の防災拠点機能の統合 ・ワークショップを通じた担い手人材の発掘・育成 ・将来的な管理運営体制の構築支援 を実施。 特に、整備段階から市民参加型のワークショップを重ね、管理運営を担う意欲ある人材を発掘、その後、創業・法人化まで伴走支援を行い、最終的には指定管理者として業務を受託できる体制づくりまで支援を行った。 ※起業創出への波及 施設内には「らっつインキュベーションキッチン」を計画・設計。飲食店出店に向けてのチャレンジが可能な実践の場を整備し、利用者がイベント出店・試験営業を通じて実績を蓄積できる仕組みをつかった。</p> <p>(5) 事業による成果: ・市民主体の管理運営法人の設立・指定管理受託 ・公共空間の継続的な利活用とにぎわい創出 ・インキュベーションキッチンからの起業家創出 ・復興拠点としての象徴性と持続的運営モデルの確立 駅北広場キターレは、公共施設を「育成の場」として位置づけ、「整備」から「担い手育成」「起業創出」「自立運営」までを一貫して支援することで、まちなか再生とローカルビジネス創出が運動する仕組みを構築した、公共空間再生の先進事例として、国土交通省「都市景観大賞 特別賞」を受賞した。</p>
	<p>【取組事例③ まちなか再生】</p> <p>(1) 事業名 : 「モノ」「コト」「ヒト」の連鎖による街なか再生 ※2010年－（現在も民間事業者の立場で取組を継続）</p> <p>(2) 対象地 : 佐賀県 佐賀市</p> <p>(3) 事業目的: JR佐賀駅から南に約1.5km 佐賀市の中心市街地に位置する長崎街道沿いの呉服元町エリアは、かつては中心市街地の商店街として賑わっていたものの、中心市街地の空寂化、衰退が進み、2008年には商店街組合が解散、翌2009年にアーケードが撤去され、空き地、空き店舗、駐車場といった遊休不動産が点在し、エリアの活力が失われていた。 そこで、「空き＝遊休地や空き店舗等」を「負動産」ではなく「可能性資産」として再定義し、社会実験「わいわいコンテナ」プロジェクトをはじめ、自らも当事者として佐賀事務所「ワークスペースズ/マシノゴ」(OOTOO0215)を開発したほか、約10年にわたって大きなシッターが開閉したままだった空きビルや、通りの連続性を分断していた老朽化したフェンスで囲まれた駐車場等を民間事業で推進することで収益を上げ、中心市街地の賑わいを創出しながらさらに再投資を行うなど、若手クリエイターや子育てをしながら働くママたちが「やがたいをできるまら」への転換を図ってきた事業である。</p> <p>(4) 事業内容: ・空き地を活用し、平日・昼間に人が集える場づくり社会実験「わいわいコンテナ」プロジェクトの企画・実施 ・空き店舗の利活用可能性を探るとともに、出店希望者のチャレンジの場（テストプロモーション）：オープンシャッタープロジェクト「ひなのみせ」の企画・実施支援 ・新規創業・出店希望者の遊休不動産への投資を支援するための事業融資支援制度の創設支援 ・空きビルのリノベーションによる「暮らしの革命」(THE ROOT) ・佐賀ならではの「アライ(水路)や通りの」価値を再考し、沿道不動産とセットで考え、活用する仕掛けづくり（呉服元町ストリートマーケット・グロムマルシェなど）</p> <p>(5) 事業による成果: ・連鎖的に展開してきたプロジェクトによって、4年間で37店舗が開業・出店し、地価が上昇に転じた。 各事業は当初から計画されていたものではなく、「スピードに実行しながら考え、柔軟に軌道修正する」手法で推進する手法によって、社会の価値観が大きく変わる中で有効であった。 特に、民地における民間事業と合わせて、前面道路や公開空地といった公共空間活用によってエリア価値の向上を図り、「パブリックマイン」のある仲間と多様なアイデアで、収益を上げながら公共空間を使いこなしを実現した。 地方都市における商店街の衰退は、郊外化によって住み人がいなくなったことによるものも大きいと考え、活用されている遊休不動産ストックを生かしながら、リスクを小さく、連鎖的に事業を展開し、隣接する公共空間と一体となった取組を展開してきたことで、まちの魅力が高まり、雇用の生みだ。その結果、現在では若い世代の居住ニーズも高まりつつある。</p>
	<p>【取組事例④ 公共空間活用・ウォークアップ】</p> <p>(1) 事業名 : 公共空間（歩行者専用道「グリーンモール」）を核としたまちなか再生基本構築策定 ※2021年度－2023年度</p> <p>(2) 対象地 : 長野県 佐久市</p> <p>(3) 事業目的: 対象エリアは、幅員18mの歩行者専用道（3つのグリーンモール）と沿道の老朽化・空き店舗化した建物群並びに公共施設「サンゴ」(中込)を有するエリアであり、老朽化した不動産ストックと活用されていない公共空間（歩行者専用道）を一体的に再生し、公民連携による持続可能なエリアマネジメント基盤の構築を目指した事業である。</p> <p>(4) 事業内容: ・空き店舗の実態調査および所有者意向調査 ・公民連携によるエリア戦略とワークショッププラン策定 ・グリーンモールの民間活用方針の検討 ・公共空間と沿道建物を一体的に活用する社会実験の企画・実施支援 ・市民ワークショップを通じた担い手の発掘</p> <p>(5) 事業による成果: 最大の特報は、公共空間「公共施設」「沿道空き店舗」を一体空間として使う社会実験を実施したことである。 中央グリーンモール約850mに人工芝や家具を設置し、一時的イベントではなぐ「日常の滞留風景」を創出。同時に、空き店舗を借り受けワークショップとして活用し、公共空間に面した不動産の価値を体感的に示したとともに、社会実験の実施主体として、若手プレイヤーを中心に「デザインミートンギンかごみ」を組成し、市・商工会議所も参画する公民連携体制を構築したことにより、今後のエリアマネジメントの担い手基盤を形成した。 ・中央グリーンモールの日常的滞留風景の創出 ・社会実験の継続から本整備につなげた ・空き店舗の流動化の兆し（新規出賃借数発生） ・マスターリース・サブリースによる不動産活用モデルの構築 ・旧銀行ビルの民間取得・リノベーション事業化（蒸気浴＋宿泊施設「NAGOMI」） ※2026年～2027年には同市出身の新海 誠監督の作品を手掛けるコミックス・ウェブ・フィルム(CWF)とデザインミーティングなかごみの代表らで設立された新会社「CWF CINEMAS」によって、新たな映画館が新設・オープンする予定 社会実験を通じて「暫定の風景」を「日常の風景」と転換し、公共空間再整備に民間投資を誘発する契機を創出した。</p>
<p>※上記以外の取組内容・実績</p> <p>【教育・人材育成・公共施設再生分野の取組み】 福島県石川町において、高校生とのまちづくりプログラムと、旧小学校のリノベーションによる文教福祉施設「モトガッコ」の企画・設計・実装支援を行った。</p> <p>本事業は、 ・高校生との継続的な対話・ワークショップを通じた若い世代が地域課題を自分事として捉えるプロセスづくりと継続的な活動の仕組みづくり ・統合により使われなくなった小学校を単に再利用するのではなく、文教機能と福祉機能を融合した複合拠点として再生するための改修設計を一体的に進めた点に特徴がある。</p> <p>■高校生との地域づくり 学芸石川高校、県立石川高校の生徒有志とともに、まちの課題抽出、将来像の描出、空間活用アイデアの検討、公開発表・意見交換を重ね、若い世代が「参加者」ではなく「活動や取組の主体となる」プロセスを実装。これにより、将来の地域プレイヤーの育成と、世代を超えた地域づくり交流の機会を創出した。モトガッコは「地域の未来を育てる拠点」として位置づけられた公共施設再生モデルとなる事例である。</p> <p>■旧小学校校舎の減築による耐震補強リノベーションと文教福祉複合施設「モトガッコ」の整備 旧校舎リノベーションし、「図書館」「学びの場＝生涯学習施設」「交流機能」「多世代が交わる居場所」を兼ね備えた文教福祉複合施設として再生。建築的再生にとどまらず、「誰がどう使い続けるか」という運営視点までを含めて設計を行った。</p> <p>■事業の成果 ・高校生との地域参画意識の向上 ・若年層と行政・地域との関係構築 ・廃校の有効活用モデルの確立 ・多世代交流拠点の創出 ・将来的な担い手育成の基盤形成</p>	